

安全授業計画

講義用マニュアル



目次



第1 時

傷害予防って何だろう？

学習

- 傷害予防の基本的な考え方を学習する
- 「傷害予防」とは事故が起こる前に対策をすること
- 「予防」とはケガの原因を取り除くこと
- ABC 理論を理解する
- 「変えたいもの」「変えられるもの」「変えられないもの」を理解する
- 傷害予防の3Eを知る
 - ・ Enforcemen t：ルールを決めよう
 - ・ Environmen t：危ないところをなおそう
 - ・ Education：教え合おう
- ABC 理論における「変えられるもの」には3種類あることを知る（傷害予防の3E）
- それぞれのEにおいて具体的な予防策を考える

目次



第2時

学校の「危ない!」を探そう

ワークショップ

- 学校内のあぶない場所を写真に収める
- なぜ危ないと思ったかのメモを残す



第3時

見つけた「危ない!」を共有しよう

発表

- 自分達が見つけた学校内の「危ない!」を発表し、考えた
予防策(デザイン案)について他の生徒からコメントをもらう
- 他の生徒の発表を聞いて、自分の気付かなかった危険に気付く
- 講師より発表内容に対するコメント

安全授業の目標

知識・理解

傷害予防とは何か、およびABC理論を理解する。

※

思考・判断・行動

ケガの原因や予防方法について考え、
予防のためにできることを実行することができる。

関心・意欲・態度

傷害予防に関心をもち、身近にある危険を見つけたり、
ケガ予防のためにできることは何かを考えることができる。

※ABC理論

ある課題に対して、課題解決を議論する上で重要な変数を

・変えたいモノ
・変えられないモノ
・変えられるモノ

の3つに分け、

「変えられるモノ」を使って「変えたいモノ」を変えるという考え方。



しょうがい よぼう
傷害予防
って何だろう？



授業の目的

学校での 事故を防ぐ



1 「^{よぼう}予防」とは何かを学ぼう

2 「安全」ができるまでの流れを知ろう

3 ^{しょうがいよぼう}傷害予防の「3つのE」を学ぼう

この授業の目的は「学校での事故を防ぐこと」です。

学校で実際に起こった事故について、または先生の個人的な事故の経験を話しながら、これから「学校で起こる事故」というテーマで学習を進めていくことを生徒に伝えます。

家庭や学校内での事故の経験を生徒に聞いてみるのも良いでしょう。

クイズ

*1 学校でのケガに 関するクイズ



(*1) 保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校を含める。治療費が5000円以上のもの。

まずはじめに学校でのケガに関するクイズを行います。

→学校の事故に対する生徒の興味や、学習意欲を引き出します。

もんだい
問題

日本全国の学校では、
病院にいく必要があるほど
重症なケガが、
1年にどれくらい
起きているでしょう？



こた
答え

約 100 万件
(10 秒に1回)
びょう

10 万件
(2 分に1回)

1 万件
(30 分に1回)

(＊1) 保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校を含める。治療費が5000円以上のもの。

問題を読み上げ、正解だと思う答えに手を挙げてもらいましょう。

正解は「100万件」です。10秒に1回事故が起きています。こうして授業をしている間にも、日本のどこかでケガをして病院を受診している子供がいます。

生徒はとても驚くと思います。答えを知って「多いと感じたか、少ないと感じたか」など、生徒の感想を聞いてみましょう。



ここからは「予防とは何か？」を考えていきます。

生徒に「予防」とはどのような意味だと思うか、質問をしてみましょう。

Movie

動画

川上へ行ってみよう ～予防のための物語～

要約(例)

はじめに、一人のおじさんが川で溺れている人を見つけました。
おじさんは、溺れている人を直ぐに助けます。
すると、今度はさらに沢山の人が川で溺れています。

溺れている人の中には、助かる人、亡くなってしまう人がいます。
一度助けられても、また溺れる人もいました。
おじさんは、他の人にも助けを求めます。

そこに、1人の女の人がやってきました。
その人は、溺れている人を助けることはせず、
なぜ人が溺れるのかを確かめに行くと言いました。

川上に行って分かったことは、「橋に大きな穴が開いていて、
その穴が原因で、沢山の人が溺れている。」という事実でした。

そこで、女の人はその穴をふさぎました。
するとそれ以来、川で溺れる人はいなくなりました。

よぼう 予防とは？



「橋のあな＝危険な場所」をなくす

Point

ケガの「^{げんいん}原因」をとりのぞく

ここではまず、先生が動画の内容を簡単に要約し、動画の内容を振り返りましょう。
動画をみた後に、生徒に感想を聞いてみるのも良いでしょう。

動画では「何をしたらおぼれる人がいなくなった」のでしょうか？

動画では「橋の穴をふさぐこと」が予防でした。

つまり、ケガの原因を事前に取り除くことが「予防する」ということになります。

じこ 事故の考え方

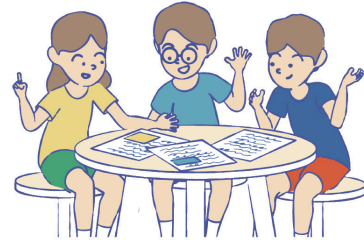
以前の「事故」は…
アクシデント
Accident (事故)



- よそく
• 予測できない
- さけられない事故



今は…
インジャリー しょうがい
Injury (傷害)



- よそく
• 予測ができる
- よぼう
• 予防できる事故

よぼう
まずは、「事故は予防できる」ことを知ろう！

このスライドでは、事故の考え方を伝えます。

解説をする前に、生徒のみなさんに、「事故は予防できると思いますか」と問いかけてみるのも良いでしょう。

以前の「事故」は、「予測できない」「避けられないもの」という考え方でしたが、最近はその考え方が大きく変わり、「予測もできるし予防できるもの」という考え方になっています。

名称も、避けられない「事故」ではなく、予測できる「傷害」に変わっています。

まずは、みんな（先生も生徒も）で、「事故（傷害）は予防できる」ということを知ることが大切です。

じこ よぼう 事故予防とは



事故が「起こる前」に^{たいさく}対策をしよう！

事故が起こる様子は、3つに分けることができます。

- ・ 事故が起こる前
- ・ 事故が起きている時
- ・ 事故が起こった後

の3つです。

では、「予防」のための対策は、どのタイミングですれば良いでしょうか。

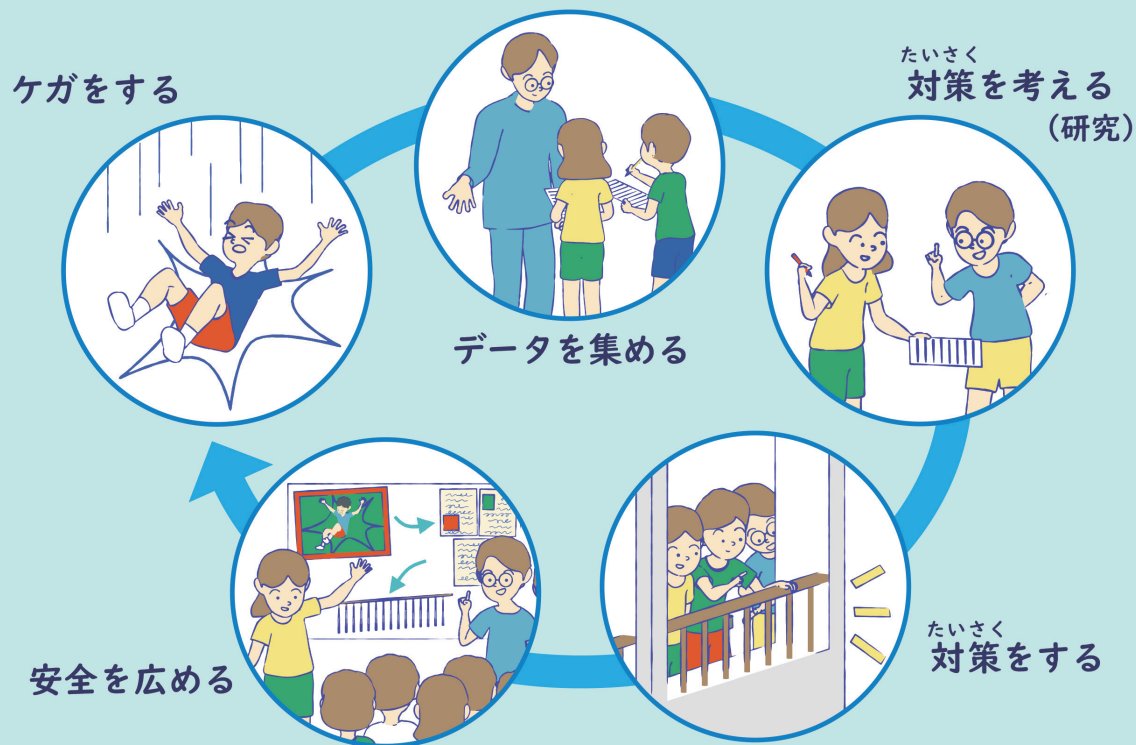
その答えは「事故が起きる前」です。

事故が起きている時や起こったあとに対策をしても予防にはなりません。

「予防」とは「事故が起きる前」に対策をすることです。

生徒には、事故が「起こったあと」ではなく、「起こる前」に対策をすることが、とても大切であることを伝えましょう。

安全ができるまでのながれ



安全な環境ができるまでには、何をする必要があるのでしょうか。
ここでは対策の考え方を説明します。

誰かがケガをした時、まずはデータを集める必要があります。
ここでのデータとは、

- ・どんな風に事故が起こったのか。
- ・何をしている時に事故が起こったのか。
- ・ぶつかった物は何だったのか。
- ・転落した時、その下はコンクリートだったのか土だったのか。 などです。

事故を見ていた人に聞き取りをしたり、現場の状況をよく観察します。
データは細かく丁寧に集めることが必要です。集めた詳しいデータをもとに、
どうしたら事前に予防することができるのか「対策」を考えます。

最後に、実際に事故が発生した現場への対策を行います。また、その対策を
他の場所や他の学校にまで広めることで「安全」が広がっていきます。

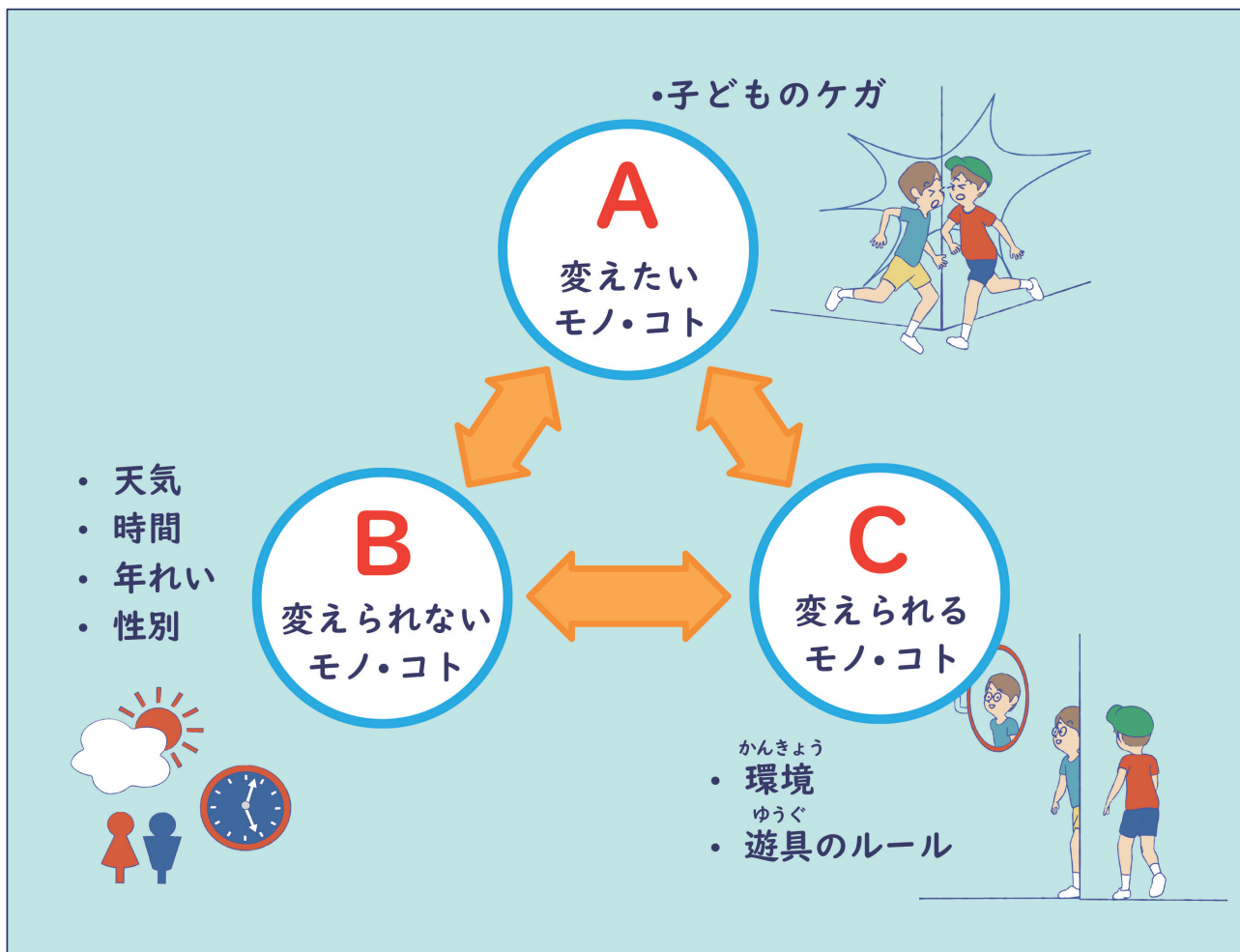
どうやって
事故を^{ふせ}防ぐの？



「ABC」で考えてみよう！

ここまでで、事故は事前に予防することが大切だということが分かってくるでしょう。

事故予防の大切さを伝えたら、次は「どうしたら予防ができるのか」を考える場合に役立つ、基本的な考え方を教えます。この基本的な考え方を、ABC理論と呼びます。



このスライドでは、**ABC理論**について解説します。

予防を考えると、まずは

- A** 変えたいモノ・コト
- B** 変えられないモノ・コト
- C** 変えられるモノ・コト

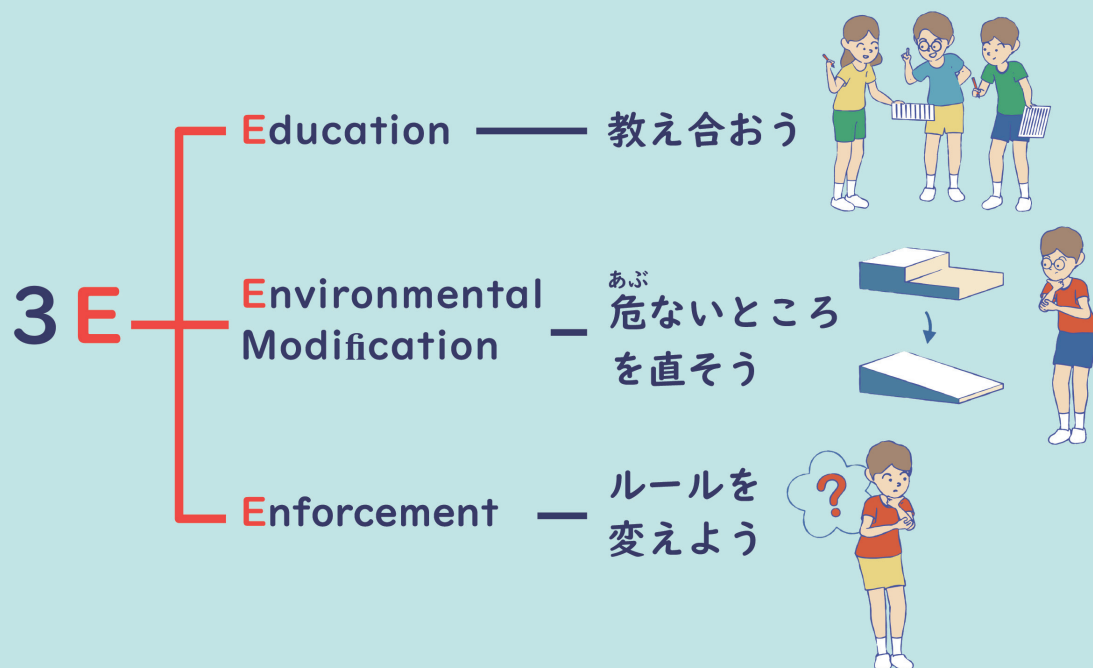
の3つに分けて考えることが大切です。

例えば、「子どものケガを減らしたい」と考えた時、

「**B** 変えられないモノ・コト」には、天気や時間、年齢、性別があります。一方、
「**C** 変えられるモノ・コト」には、「遊具の設置面を柔らかくする」といった「環境」や、
遊び方の「ルール」などがあります。

「**C** 変えられるモノ・コト」を見つけて、「**A** 変えたいモノ」を変える、という方法です。

「変えられるもの」= しょうがいよぼうの「3E」



傷害予防において「**A** 変えられるモノ・コト」は3つあると言われています。

これは「傷害予防の3つのE」と呼ばれ、傷害予防の分野では、世界的によく知られた考え方です。

「3E」は、英語で

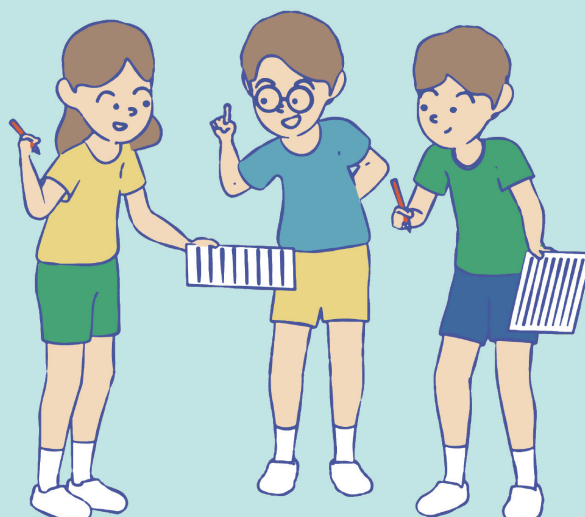
- ・ Education (教育)
- ・ Environment (環境改善)
- ・ Enforcement (法制化) の3つです。

日本語では、「教育」・「環境改善」・「法制化」と訳されていますが、

子どもにも分かりやすいように、この学習では「教え合おう」「危ないところを直そう」「ルールを変えよう」と伝えています。

Education

教え合おう



まずは、3つのEの1つめ「教え合おう」について学習します。



動画

この動画を見てみましょう。

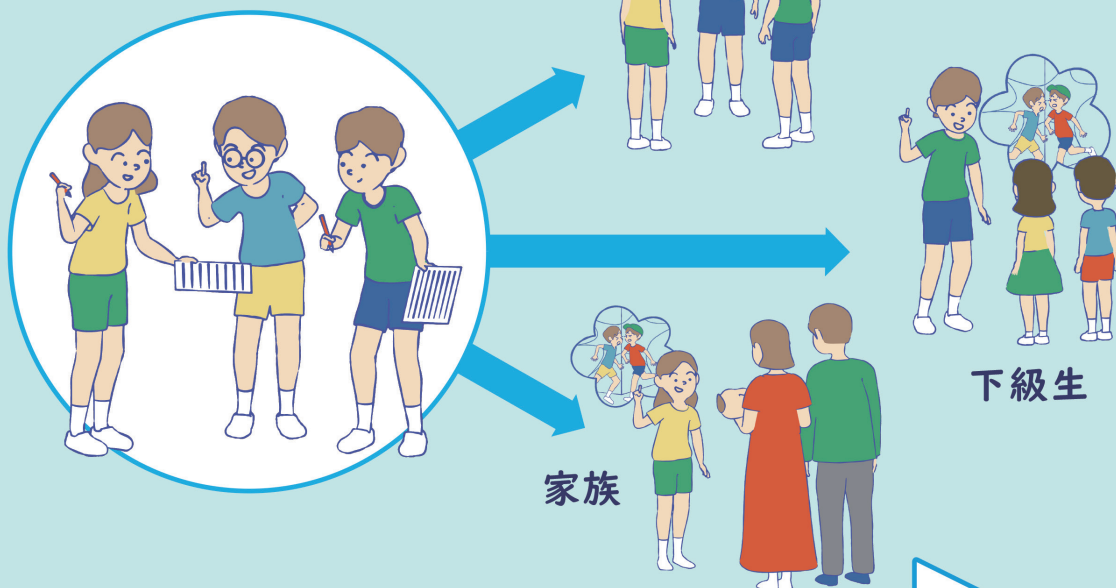
この動画は、お友達と追い駆けっこをしていて、逃げている子どもがドアを閉めたことで、追い駆けている子どもの手がドアに挟まれてケガをしています。

この事故は、学校でよく起きる事故の1つです。

どこでどのような事故が起きるのかを知れば、自分の行動を変えることができることを伝えましょう。

このような指はさみの事故をどうやったら予防できるのかを話し合ってみるのも良いでしょう。

Education 教え合おう



学んだことをみんなに教えてあげよう！

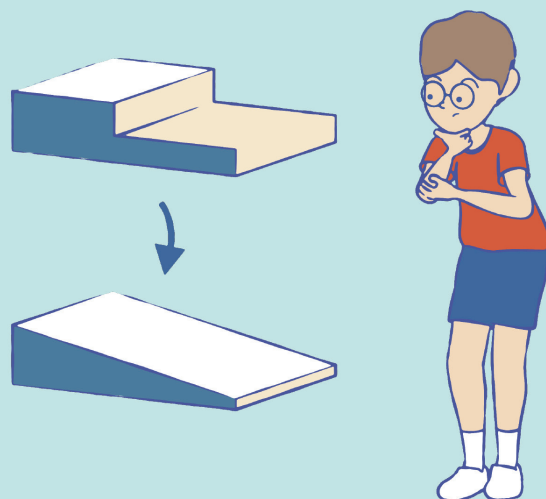
このスライドでは「教え合おう(教育)」について解説します。

前の動画で見た通り、どこでどのような事故が起きるのか、どうしたら予防できるのかを、他の学校のお友達や下級生、家族などに教えてあげることで、少しずつ安全の輪が広がっていくことを伝えます。

自分や友達のケガの体験、この学習で学んだ事故の考え方やABC理論など、この授業を受けていない人に伝えることが予防につながることも、生徒に伝えると良いでしょう。

Environmental Modification

危ないところを直そう



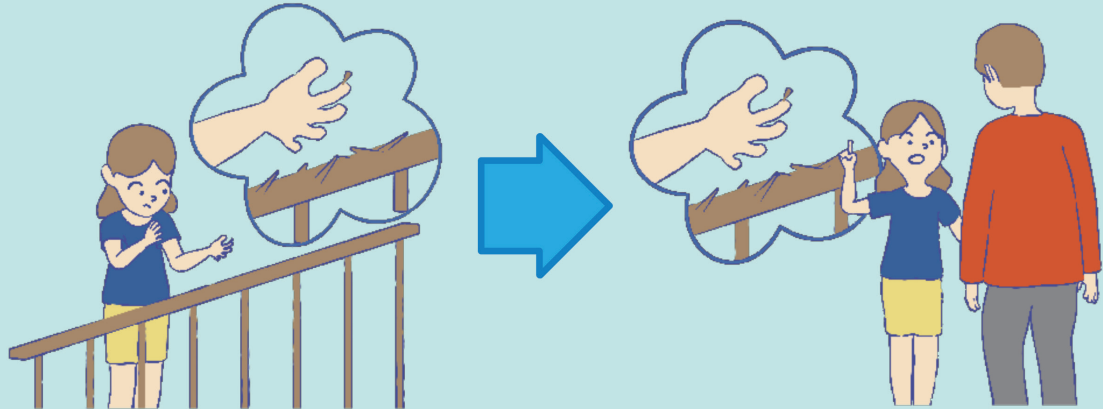
次は「危ないところを直そう」です。

Environmental Modification

危ないところを直そう

あぶ
教室や校庭で危ない
ところを見つけたら…

すぐに大人に
知らせよう



先生や大人に教えて直してもらおう

2つめのEは「危ないところを直そう」です。

これは、壊れている遊具などを直す、ということですが、実際には、生徒自身で壊れている箇所を修理することは難しいので、危ないところを見つけたら、先生や周りにいる大人に知らせることが、生徒の役割であることを伝えましょう。

Environmental Modification

危ないところを直そう

他の学校の取り組み

事故の例

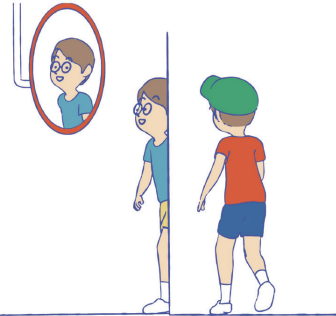


廊下の角で、走ってきた友だちとぶつかって頭を強く打った。

(2年生・女)



直したところ



鏡をつけて、向こうから来る人が見えるようにした。

このスライドでは、他の学校で実践されている環境改善の例を示しています。

例えば、廊下の角で出会い頭の衝突はよく起こる事故の1つです。

ある学校では、この出会い頭の事故を予防するため「向こうから来る人が見えるように鏡をつける」という対策がなされています。

「向こうから来ている人が見えないなら、見えるように環境を変える。」という方法です。



Enforcement

ルールを変えよう

3つめのEは「ルールを変えよう」です。

Enforcement ルールを変えよう



動画

この動画では「ボールを拾おうとした子どもが、ブランコをしている子どもに衝突される。」という事故になっています。この事故もよく起こる事故の1つです。

動画を見終えたあと生徒に「この事故を防ぐためには、どんなルールを決めるとよいか？」を問いかけてみましょう。

スライドにある「ボール遊び中にブランコは使わない。」というのは1つの例です。

生徒の考えるルールを聞き、提案されたルールについてみんなで話し合ってみるのも良いでしょう。

A B C ^{かんが}で考えよう！



動画

この動画は、「傷害予防って何だろう」の学習で生徒に伝えたことを
分かりやすくまとめた内容になっています。

今日のまとめ



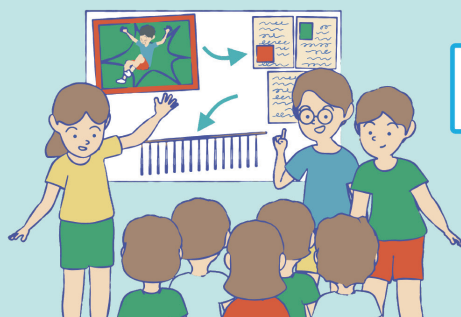
最後に、この学習のまとめをします。

今日のまとめ

1 ^{よぼう}「予防」とは、「^{げんいん}原因を取りのぞく」こと

2 ^{よぼうさく}予防策は、ABCで考えよう

3 「3E」で変えられること（C）を見つけよう



教え合おう

あぶ 危ないところを直そう

ルールを決めよう

「傷害予防って何だろう」という学習で、生徒に伝えたいことは、この3点です。

- ・「予防」とは「原因を取りのぞく」こと
- ・ 予防策は、ABCで考えよう
- ・ 「3E」で「C 変えられること」を見つけよう

この3点を挙げながら、授業中の生徒の発言などを振り返るとよいでしょう。

また、ABCは「変えたいモノ」「変えられないモノ」「変えられるモノ」の3つを整理し、「変えられるモノ」を変えることで「変えたいモノ」を変えるという考え方が重要である点、「変えられるもの」には3つあり「傷害予防の3E」と呼ばれていることを、振り返りも含めて伝えましょう。

傷害予防の3Eは何だったか問いかけ、「教え合おう」「危ないところを直そう」「ルールを決めよう」という3Eをしっかりと覚えられるようにしましょう。

じゅぎょう
次の授業について
～みんなへのおねがい～



ここからは、次の授業について説明します。

次の授業では、学校内で生徒が危ないと思う写真を取り、危ない場所を安全な場所に変える方法を考えてまとめるという内容になります。

次の授業

1 ^{あぶ} 危ないところの写真をとる

[次の授業までの準備]

学校内でケガをしたり、危ない経験をした
場所を思い出し、写真を撮るところを
決めましょう。

どの場所を
写真にとるかは、
当日までヒミツに
しておこう！

ひとり
1 か所



次の授業では、まず、危ないところの写真を撮りに行きます。

授業時間が限られているので、次の授業までに、自分がどこの写真を撮るか決めてくる
ように伝えましょう。

学び合いの観点から、どこの写真を撮るかは、友達には秘密にしておくといと思います。

次の授業

2 ^{しりょう}発表資料をつくる

[次の授業までの準備]

見つけた「危ないところ」を
「安全」に変えるための方法を
かんきょうかいぜん
環境改善の観点で
考えてみましょう。



はつめいか
発明家になった
つもりで考えよう！

写真を撮った後は、その写真を見ながら、危ないところを安全にするためのアイデアを考えます。その時、3つのEの2つ目である「危ないところを直そう」の環境改善の視点で考えます。

次の授業までに、どのように環境を変えると安全になるのかも、考えてくるよう伝えましょう。環境改善のアイデアは、「こんなものがあつたらいいな。」というもので良いことも伝えます。

他の学校の 5 年生が考えた例

タイトル：「いつでも見てますよかいだん」

危険なところ



かいだんで転んだ時
落ちたら危ない！

改善するためのアイデア



かいだんで転ぶと
エアバッグが開く

このスライドでは、他の学校の生徒が考えた環境改善アイデアの例を示しています。

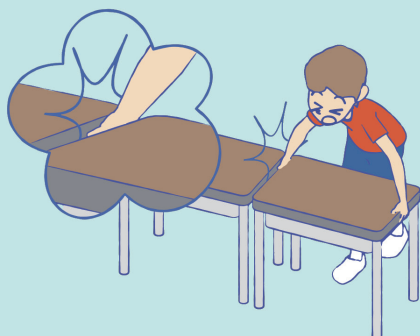
他の学校の 5 年生が考えた例 タイトル：「いつでも見てますよかいだん」

階段から飛び出すエアバッグのように、「こんなものがあつたらいいな」というものを自由に発想して良いことを伝えます。

他の学校の5年生が考えた例

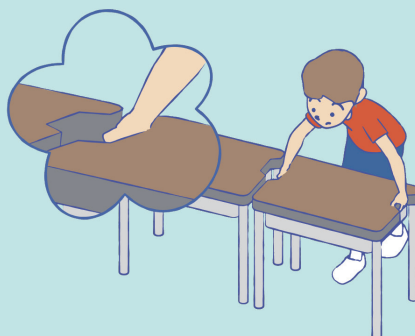
タイトル：「安全デスク」

危険なところ



机を移動させた時に、
手を挟んでしまって危ない！

改善するためのアイデア



指をはさまないように、
机にへこみをつけたらどうか？

他の学校の5年生が考えた例 タイトル：「安全デスク」

他の学校の5年生が考えた例

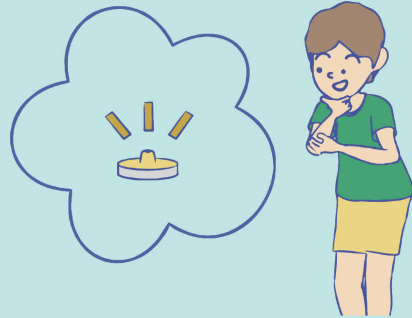
タイトル：がびょうの針が中に入る」

危険なところ

改善するためのアイデア



画鋲が落ちた時に、
足にささって危ない！



かべから落ちたら
はりが中に入る画びょう

他の学校の5年生が考えた例 タイトル：「がびょうの針が中に入る」

次の授業へ向けて

～みんなへのおねがい～

[次の授業までの準備]



1

しゃしん
写真をとる
場所を決める
ばしょ



2

よぼう
予防のための面白い
アイデアを考える

最後に、このスライドにある2点を伝え、次の授業の準備をしましょう。

学校の 「危ない!」 を探そう



授業の目的

学校の「危ない！」 を探そう

- 1 学校内の「危ないところ」の写真をとる
- 2 どうして危ないと思ったかを書く
- 3 よぼう 予防のためにできることを考える



この授業では、学校内の危険な場所の写真を撮り、次の授業に向けた発表資料を作成します。このスライドにある通り、授業の目的3つを伝えましょう。

前回の授業「傷害予防って何だろう」を振り返り、
予防とは何か、傷害予防の3つのEをおさらいしましょう。

- ・ 予防とは？
→ 原因を取り除くこと
- ・ 傷害予防の3つのE：
→ 教え合おう、危ないところを直そう、ルールを変えよう

生徒に、前回の授業で印象的だったこと、覚えていることなどを聞いて、
振り返りをするのも良いでしょう。

Let's go!



さっそく
写真をとりに
行こう！

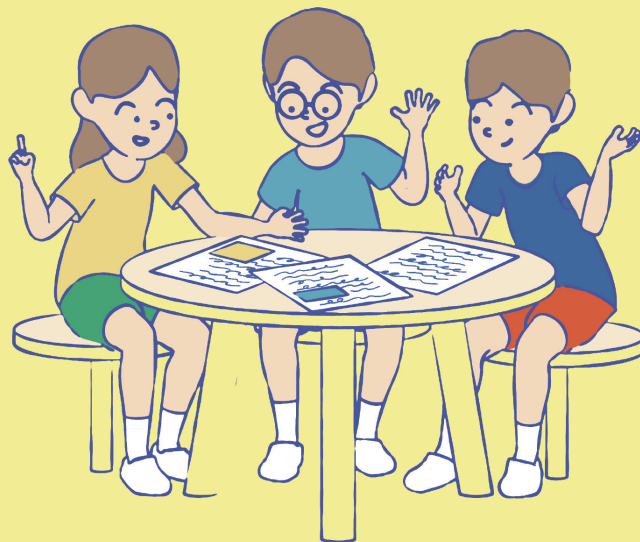
さっそく写真を撮りに行きます。

先生は、生徒に教室に戻ってくる時間を伝えましょう。

生徒は、この授業で写真を撮る場所を決めてきていると思いますので、

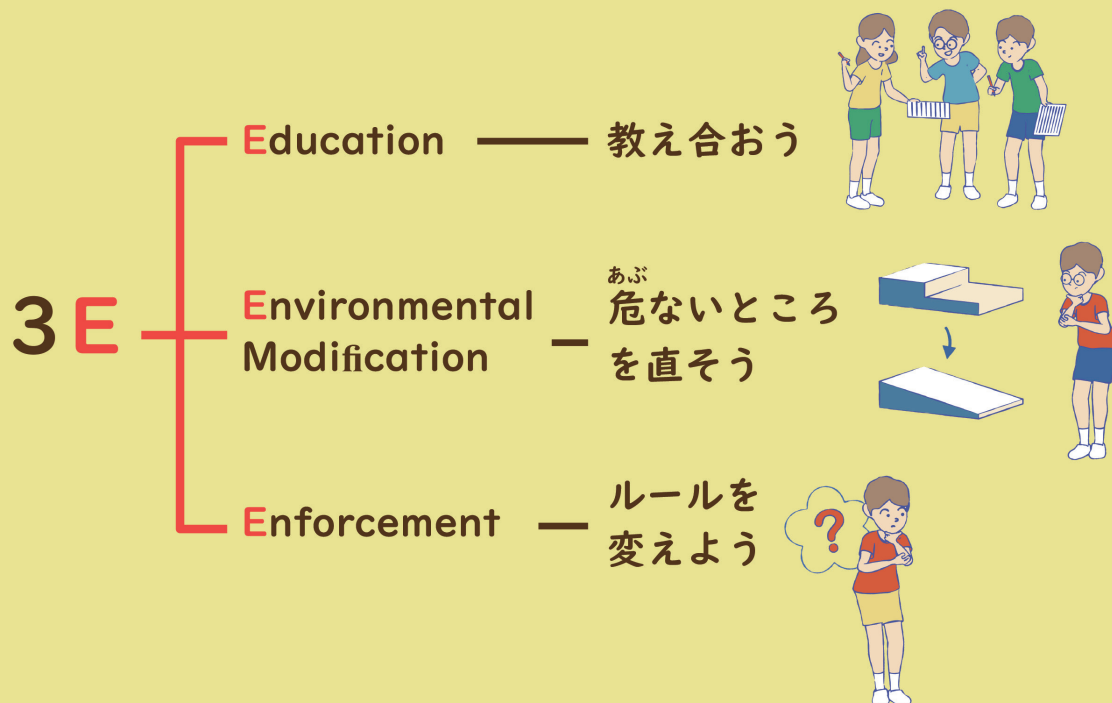
その場所まで、ゆっくり走らず、ケガをしないように移動すること、他のクラスの邪魔にならないように、静かにすることを伝えましょう。

しりょう 発表資料を作ろう



全員が写真を撮り、教室に戻ってきたことを確認し、これから発表資料の作成に移ることを伝えます。

「変えられるもの」 = しょうがいよぼう 傷害予防の「3E」



発表資料作成の前に、もう一度、傷害予防の3つのEについて振り返りをします。

その時、2つめのEである「危ないところを直そう」が、予防効果が1番高いことを伝え、この観点で予防のアイデアを発表資料にまとめることを伝えます。

発表用フォーマット

タイトル	名前
<p>●危ないところ</p> <div><p>Photo</p><p>見つけた「危ないところ」の 写真を貼りましょう</p></div> <p>●その場所が危ないと思った理由</p>	<p>●危ないところを安全にするためのアイデアを、イラストで描いてみよう。</p> <p>●アイデアの説明</p>

このフォーマットを使って発表資料を作成します。

複数の写真を撮ってきている場合は、その中から1枚を選びます。

おそらく、この時点で写真は印刷できてないと思いますので、この授業中は写真を撮ってきた端末に映っている写真をみながら資料を作成し、後日、左上に写真を貼ります。

発表資料をパワーポイントで作成する場合には、写真を左上に貼りつけるように伝えましょう。

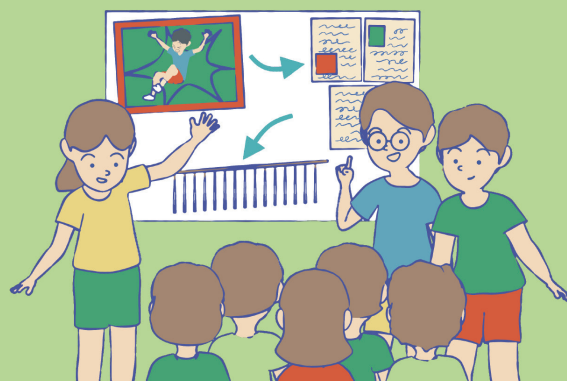


見つけた
「危ない！」
きょうゆう
を共有しよう



授業の目的

「危ない！」 きょうゆう を共有しよう



- 1 見つけた「危ないところ」を発表する
- 2 お友達の発表を聞こう
- 3 気づかなかった「危ない」に気付こう

最後の授業では、それぞれが見つけてきた危ない場所を、安全にするアイデアを発表してもらいます。

ここに示す3つの目標を伝えます。

お友達の予防のアイデアに対し、良い点や疑問なども考えながらしっかり聞くように伝えましょう。

発表会のあと、先生は

- ・ タイトルが面白い
- ・ ユニークな視点で予防のアイデアを考えている
- ・ 環境改善の予防策になっている
- ・ 新しい技術を活用している

などの観点から、いくつかの発表に対してコメントを伝えてあげましょう。

お友達の発表を聞いて、質問がないか、他の生徒にも聞いてみると良いでしょう。



動画

この動画をみたあと、これまで3回にわたり行ってきた授業全体を振り返ります。

- ・ 予防とは何か
- ・ 傷害予防の3つのE
- ・ 予防の大切さ
- ・ ケガは予防できること

を伝え、授業全体を通して生徒の感想などを聞いてみると良いでしょう。